ユニセフ 子どもネットニュース

2002冬 NO.3

発行者：ユニセフ子どもネット事務局　財団法人 日本ユニセフ協会　広報室　〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
でんわ：03-5789-2016　ファックス：03-5789-2036　電子メール：jcuinfo@unicef.or.jp

unicef 財団法人 日本ユニセフ協会

ユニセフTOPICS

アフリカ南部の国ぐに

食糧危機ますます深刻に

ザンビアを訪れた
ロジャー・ムーアユニセフ親善大使
©UNICEF/Sarah Epstein/2002

アフリカ南部の６カ国（ジンバブエ、マラウイ、ザンビア、モザンビーク、スワジランド）では、悪天候、干ばつ、政治や経済が安定しないこと、HIV/エイズの広まりなど、さまざまな原因がからまりあって、たいへんな食糧危機がおこっています。危機にさらされているのは1400万人以上。およそ半分が18歳未満の子どもで、そのうち230万人は5歳未満の子どもです。

11月にザンビアを訪問したユニセフ親善大使のロジャー・ムーアさんは、現地のようすを見てこのように話しています。

「ぞっとするような状況です。これまでも飢餓にみまわれた地域を訪れたことがありますが、こんなふうではありませんでした。拍車をかけているのはエイズです。昔から繰り返されてきた干ばつだけによる被害とはちがっています。昔は、種を植え、畑を耕し、働けるおとなが残っていました。今は、おとなの４人にひとりがHIVに感染しています。多くの人が病気で働けず命を失います。後に残されるのは子どもたちです。８歳や９歳の子どもがひとりきりで生きていかなければならないのです。36時間も何も食べていない孤児に会うのは、本当につらくて恐ろしいことです。そんな空腹でどうして学校で勉強なんてできるでしょう」

日本ユニセフ協会は、こうしたアフリカ南部の国ぐにをはじめ、さまざまな危機にさらされているアフリカ諸国を支援するため、アフリカ緊急募金の受け付けをはじめました。

ジンバブエ、マラウイ、ザンビア、モザンビーク、スワジランド

夢を打ちくだかれたジオナ

マラウイで無料の小学校制度がはじまったのは1994年。そのとき10歳だったジオナは、希望でいっぱいでした。「最後まで学校に通って、先生か医者になるわ」

でも、夢は打ちくだかれてしまいました。今年に入ってからの食糧危機とHIVに感染しているお母さんの健康問題とで、とうとう学校をやめなくてはならなくなったのです。

「今まで一度も学校を休んだことはなかった。7年生になったところだったの。だんだんようすが厳しくなってきて、学校から帰っても家には食べるものがなく、母は結核になって、14日間も病院に泊まり込まなければならなかった」

ジオナのお父さんは2000年にエイズで亡くなりました。彼女は7人きょうだいの2番目です。ジオナは近所の農園で働かせてもらっていましたが、今は農園に仕事はありません。彼女もきょうだいも何日も何も食べられないような日が続いています。

コミュニティで活動している女性のグループが、ジオナのような子どもたちを支援しています。子どもたちには、ユニセフなどが提供している栄養を強化したとうもろこしのおかゆが配られています。

しかし、グループの活動資金は底をつき、支援を必要としている人は急激に増えています。ユニセフや他の機関も必死に活動を続けていますが、国際社会の関心は低いままです。絶望の中、ジオナはつぶやいています。

「どこか助けがあるところへ行きたい」

©UNICEF/HQ02-0258/Ami Vitale

パレスチナ自治区

子どもたちが学校に行けない

暴力の悪循環がつづいているイスラエルとパレスチナ自治区。10月、パレスチナ自治区のユニセフ事務所特別代表ピエール・プパールさんは、イスラエルがパレスチナでおこなっている規制のために、子どもたちが学校に行けない状態にあるとうったえました。パレスチナでは、22万6,000人以上の子どもたちと9,300人の先生が学校に行くことができないままでいます。580校がイスラエル軍による外出禁止令や封鎖のために休校しています。

©UNICEF-OPT/2001/S.Sabella

移動の規制がある地域では、学校に代わる教育システムがとられています。自宅で両親から勉強を教わったり、モスク（イスラム教寺院）や地下などに仮設の教室がつくられたりしています。「学校に代わるシステムをとらなければならないことからも、パレスチナの子どもたちがどれほどひどい影響を受けているか分かるでしょう」とプパール代表は言います。

経済的に厳しい状態にあり、学校に通えない子どもたちを支援するために、ユニセフは「バック・トゥ・スクール＜学校にもどろう＞」キャンペーンをおこなっています。制服、通学カバンなどを提供するなどして、1万4,000人の子どもたちが支援を受け学校に通っています。今年は、経済自体が破綻してしまっており、31万7,000人のパレスチナの子どもが支援を必要としています。

パレスチナ

予防接種のこれからについて

ユニセフはWHO（世界保健機関）などといっしょに世界の予防接種についてのくわしいレポートを発表しました。予防接種を広める努力が多くの地域で成功をおさめ、はしかや破傷風にかかる子どもの数は減り、ポリオはもうすぐ根絶できるといわれるまでになりました。その一方で、予防接種を受けられない子どもも大勢います。特にサハラ以南のアフリカ地域では、1歳になるまでに予防接種を受けられる子どもの割合は50％という低さです。大きな格差がうまれています。

すべての子どもが予防接種を受けられるようにするためには、それこそ、山や谷をこえ、砂漠をこえ、戦火をこえてでも、ワクチンや予防接種の道具を届けられるようにする必要があります。また、安全に予防接種ができるように、たとえば、1回使ったら再び使えない新型の注射器を使えるようにしたり、より多くの保健員をトレーニングしたりしなければなりません。

また、これまで重点的におこなわれてきた6種類の病気（はしか、ポリオ、百日咳、破傷風、結核、ジフテリア）に対する予防接種に加えて、子どもたちを苦しめているその他の病気、たとえば、HIV/エイズやマラリアなどに対するワクチンの開発や、毎年何万人もの患者が出ているデング熱やコレラなどに対する予防接種も必要だと報告しています。

最後にレポートは、すべての子どもたちが病気から守られるように、世界の人びとが予防接種により関心を持って投資してほしい、とうったえています。

©UNICEF/HQ92-0483/
Jeremy Hornor

＊日本ユニセフ協会のホームページ（http://www.unicef.or.jp）では、予防接種を特集したサイトをオープンしています。予防接種についてのお話や写真集などを見ることができます。

もくじ

ユニセフトピックス 1
子どもを売らないで！…アグネス・チャンさんカンボジア訪問／カンボジアの子ども・若者も来日 2-3
地図で見る世界の子どもたち　「安全な水を子どもたちに！」 4-5
ソマリアって国、知ってた？ ～子どもネットワーカー記者　ユニセフスタッフにインタビュー～ 6-7
REPORT&INFORMATION 〈報告とお知らせ〉 8